

能登半島地震支援

三重県災害時学校支援チーム報告書

令和6年10月

三重県教育委員会

目 次

はじめに	1 p
第1章 令和6年能登半島地震と隊員派遣の概要	3 p
1-1 令和6年能登半島地震の概要	4 p
1-2 派遣の概要	5 p
第2章 派遣等の経緯	9 p
第3章 各隊の学校支援活動	13 p
3-1 先遣隊の活動	14 p
3-2 本隊の支援活動	15 p
第4章 気づき・課題と南海トラフ地震対策の強化に向けた 取組の方向性	29 p
第5章 派遣隊員の感想（派遣を振り返って）	35 p

はじめに

令和6年1月1日(月・祝)16時10分に石川県能登地方(北緯37.5度、東経137.3度)を震源とする規模マグニチュード7.6(暫定値)、震源の深さ16km(暫定値)の地震が発生しました。輪島市、羽咋郡志賀町では震度7が観測され、震度5強以上の地震が石川県各地で観測されたほか、新潟県長岡市、富山県富山市、福井県あわら市など北陸地方の広範囲で観測されました。

死傷者については、石川県を中心に、多数の家屋倒壊、土砂災害等により死者401人(うち災害関連死174人)、重軽傷者約1,300人の甚大な被害が発生しました。

避難者については、石川県は最大で約4万人で、三重県のカウンターパートである輪島市においては、避難所が160か所、避難者が12,428人(令和6年1月8日14時00分現在)に達し、能登半島地震で最大の避難者数となりました。人口の半数以上が避難者となったことから、輪島市内の全ての学校において、指定避難所の指定の有無に関わらず、避難所として開設され、多くの教職員が避難所運営を余儀なくされました。

この状況下において、学校現場の被害状況、教職員の勤務状況及び授業再開見込みの聴き取りを行うため、1月10日(水)から三重県災害時学校支援チーム先遣隊を派遣し、通常为学校再開に向けて、1月19日(金)から3月31日(日)まで、本隊14次隊を派遣し、延べ46人の教職員が授業支援や児童生徒の心のケアなどの支援活動を行いました。

この報告書は、今回の能登半島地震支援において、派遣された隊員の経験や知見を共有することで、近年発生が予想される南海トラフ地震への学校等の防災対策や、いつ発生するか分からない大規模災害に対して、災害時学校支援チームを派遣するにあたり、一助となるために作成したものです。

第1章

令和6年能登半島地震と隊員派遣の概要

1-1 令和6年能登半島地震の概要

1. 発生日時

令和6年1月1日16:10

2. 震源及び規模（暫定値）

場所：石川県能登地方（北緯37.5度、東経137.3度）

規模：マグニチュード7.6（暫定値）

震源の深さ：16km（暫定値）

3. 各地の震度（震度5強以上）

石川県 震度7 志賀町、輪島市

震度6強 七尾市、珠洲市、穴水町、能登町

震度6弱 中能登町

震度5強 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、
宝達志水町

新潟県 震度6弱 長岡市

震度5強 新潟中央区、新潟南区、新潟西区、新潟西蒲区、三条市、
柏崎市、見附市、燕市、糸魚川市、妙高市、上越市、
佐渡市、南魚沼市、阿賀町、刈羽村

富山県 震度5強 富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市、射水市、
舟橋村

福井県 震度5強 あわら市

4. 人的被害

死者401人（うち災害関連死174人）、行方不明者3人、

負傷者1,336人

5. 物的被害

全壊6,421棟、半壊22,823棟、一部破損103,768棟

※各種データは内閣府「令和6年能登半島地震による被害状況等について」

（令和6年10月1日14時00分現在）から引用

1 - 2 派遣の概要

1. 概要

三重県教育委員会では、令和6年1月10日から三重県のカウンターパートである石川県輪島市に先遣隊を派遣して、学校の被害状況などの調査を行い、その結果をふまえ、令和6年1月19日から第1次隊を派遣しました。派遣は、令和6年3月31日（第14次隊）まで実施し、延べ46人の隊員などが、現地教員の授業支援や児童生徒の心のケアなどの活動を行いました。

2. 先遣隊の派遣

日程：令和6年1月10日から11日

三重県教育委員会事務局職員2人を輪島市に派遣。輪島市教育委員会、輪島市内の学校を訪問し、被災状況や支援ニーズ等の情報収集を行いました。

3. サポート隊員の募集

輪島市での支援活動が長期化することを見据えて、隊員とともに支援活動に取り組む「サポート隊員」を公立小中学校及び県立学校の教職員を対象に募集し、51人から応募がありました。

【サポート隊員の所属内訳】

小学校12人、中学校14人、県立高校19人、県立特別支援学校6人

4. 本隊の派遣

①派遣方針

- ・ 隊員3人で派遣チーム隊を編成（第1次のみ、現地の受入体制を調整するため5人体制で派遣）
- ・ 第7次隊からは「隊員2人＋サポート隊員1人」でチーム編成
- ・ 各隊の派遣期間は1週間
- ・ 現地で前の隊から引継ぎを受けて活動

②派遣実績・日程

災害時学校支援チーム隊員・サポート隊員派遣一覧

第1次 (調整隊) 1/19~26	派遣隊員名	瀧川 昌俊	佐々木 晃	
	所属名	県教育委員会教育総務課	県教育委員会教育総務課	
	職種	班長	係長	
第1次 (本隊) 1/20~26	派遣隊員名	森 啓子	土井 翔太	早川 輝
	所属名	鈴鹿市立清和小学校	松阪市立阿坂小学校	大台町立宮川中学校
	職種	養護教諭	教諭	主事
第2次 1/25~31	派遣隊員名	深田 勝利	榎本 善応	山本 将也
	所属名	県教育委員会教育総務課	熊野市立木本中学校	南勢教育支援事務所
	職種	主幹	教諭	充指導主事
第3次 1/30~2/5	派遣隊員名	木村 美佳	稲垣 建人	西川 知輝
	所属名	桑名市立多度青葉小学校	四日市市立塩浜中学校	尾鷲市立向井小学校
	職種	養護教諭	教諭	教諭
第4次 2/4~2/10	派遣隊員名	石井 良彦	大串 敦史	川上 みさき
	所属名	四日市市立楠小学校	鈴鹿市立桜島小学校	県立東紀州くろしお学園
	職種	教諭	教諭	教諭
第5次 2/9~2/15	派遣隊員名	川端 駿太	大西 徹	水本 憲二
	所属名	多気町立勢和中学校	度会町立度会小学校	名張市立桔梗が丘東小学校
	職種	教諭	指導教諭	教諭
第6次 2/14~2/20	派遣隊員名	小濱 裕之	石井 優樹	辻 泰弘
	所属名	亀山市立川崎小学校	大台町立三瀬谷小学校	県立四日市農芸高校
	職種	教諭	主任	教諭
第7次 2/19~2/25	派遣隊員名	澤 久恵	藤高 照也	奥井 紗菜 (サポート)
	所属名	名張市立桔梗が丘小学校	県立名張青峰高校	亀山市立亀山東小学校
	職種	教諭	教諭	養護教諭

第8次 2/24~3/1	派遣隊員名	齋藤 傑	真鍋 吉宏	村林 幸穂 (サポート)
	所属名	桑名市立明正中学校	伊賀市立上野西小学校	松阪市立射和小学校
	職種	教諭	教諭	講師
第9次 2/29~3/6	派遣隊員名	徳田 健介	上嶋 真実	塩谷 正雄 (サポート)
	所属名	鈴鹿市立若松小学校	名張市立名張小学校	県立白山高校
	職種	教諭	教諭	教諭
第10次 3/5~3/11	派遣隊員名	浅井 剛史	中村 佳栄	喜田 裕彰 (サポート)
	所属名	津市立橋北中学校	紀北町立相賀小学校	県立木本高校
	職種	教諭	教諭	教諭
第11次 3/10~3/16	派遣隊員名	西岡 一樹	中瀬 信亮	森嶋 かをり (サポート)
	所属名	県立松阪あゆみ特別支援学校	多気町立佐奈小学校	鈴鹿市立大木中学校
	職種	教諭	主任	指導教諭
第12次 3/15~3/21	派遣隊員名	矢田 陽	前川 晋作 (サポート)	山本 樹美 (サポート)
	所属名	県立特別支援学校西日野にし学園	名張市立比奈知小学校	志摩市立文岡中学校
	職種	教諭	教諭	教諭
第13次 3/20~3/26	派遣隊員名	曾野 亜希子	川極 道子	大松 祐太 (サポート)
	所属名	県教育委員会高校教育課	名張市立美旗小学校	県立特別支援学校玉城わかば学園
	職種	充指導主事	教諭	教諭
第14次 3/25~3/31	派遣隊員名	坂口 敏満	山中 寿士	辻 昌享 (サポート)
	所属名	津市立一身田小学校	名張市立錦生赤目小学校	県立石薬師高校
	職種	教諭	教諭	教諭

【派遣者（隊員、サポート隊員）の所属内訳】

小学校：22人 中学校：8人 県立高校：5人

県立特別支援学校：4人 県教育委員会：5人

※隊員、サポート隊員の所属、職種及び氏名は派遣当時で記載しています。

③主な活動内容

輪島市教育委員会、石川県教育委員会や輪島市内の学校と随時意見交換を行いながら、支援ニーズを踏まえて、輪島市門前地区（1月21日～3月15日）と輪島市中心部（3月18日～3月29日）の学校において、臨機応変に支援活動を実施しました。

ア. 学校再開に向けた事前準備段階での活動内容

- ・校内の整備、片付け（倒れたロッカーや書庫・金庫などの整理、書類や図書などの片付け・整理 等）
- ・教室の準備（受入人数に応じた学習場所の検討、室内の間仕切り、机や椅子の高さ調整、学習教材の準備等）
- ・オンライン授業を実施するための通信環境の整備
- ・校内での過ごし方、生活ルールの作成
- ・児童生徒用仮設トイレの設置、トイレ使用ルールの作成
- ・児童生徒の健康チェックの実施方法の検討 など

イ. 学校が再開した後の活動内容

- ・登下校時の交通指導
- ・現地教員による授業の支援、オンライン授業のサポート
- ・児童生徒の心のケアに向けた取組（心のケア授業のサポート、保護者向けの心のケアの留意点などをまとめた通信の作成、児童生徒から相談を受ける体制づくり等）
- ・特別支援学級の児童の支援
- ・現地教員の代替で授業実施（体育等） など

ウ. その他の活動内容

- ・学校事務の支援（教科書再給与冊数調査、不足学用品の調査や調達、児童生徒の転校手続き等）
- ・教職員の災害見舞金請求事務等の支援 など

第2章

派遣等の経緯

2 派遣等の経緯

- 1月1日(月) ・能登半島地震発生
- 1月4日(木)～ ・県防災対策部から情報収集及び他県学校支援チームの派遣
状況の情報収集と他県学校支援チームへ被害情報提供
- 1月10日(水)～11日(木)
 - ・先遣隊派遣
 - ※派遣中に熊本県学校支援チームと協議
- 1月12日(金) ・先遣隊が県教育長へ状況報告
- 1月14日(日) ・熊本県教育委員会が熊本県学校支援チーム先遣隊を輪島市
に派遣
- 1月15日(月) ・三重県災害時学校支援チームの派遣に係る説明会を実施
 - ・隊員に派遣日程調整を依頼
- 1月16日(火) ・宿泊施設「TOGISO」手配
- 1月17日(水) ・白山青年の家、白山ろく少年自然の家に中学生が集団避難
- 1月18日(木) ・サポート隊員を募集(県立学校)
 - ・輪島高等学校が、同校舎で授業再開
- 1月19日(金) ・1次隊(調整隊)派遣
- 1月20日(土) ・1次隊(本隊)派遣
- 1月21日(日) ・門前東小学校にて学校支援開始
- 1月24日(水) ・市町等教育長会議(オンライン)を実施
 - ・門前地区(門前西小学校、門前東小学校、門前中学校)
の小中学校3校合同で、門前東小学校において授業再開
- 1月25日(木) ・2次隊派遣
 - ・サポート隊員を募集(公立小中学校)
- 1月29日(月) ・門前高等学校が、同校舎で授業再開
- 1月30日(火) ・3次隊派遣
 - ・町野地区(町野小学校、東陽中学校)の小中学校2校合同
で、町野小学校において授業再開
- 2月 4日(日) ・4次隊派遣
- 2月 6日(火) ・市中心部7校(河井小学校、鳳至小学校、鶴巣小学校、
大屋小学校、河原田小学校、三井小学校、輪島中学校)
合同で、輪島高等学校において授業再開
- 2月 9日(金) ・5次隊派遣
- 2月10日(土) ・5次隊が輪島市内中心部で熊本県学校支援チームと

- 打合せ、活動
- 2月13日(火) ・ 輪島市内小中学校において昼食(炊き出し、弁当配布)の提供を開始
・ 午後の学校活動再開
 - 2月14日(水) ・ 6次隊派遣
 - 2月15日(木) ・ 6次隊が門前高等学校の支援を開始
 - 2月19日(月) ・ 7次隊派遣
 - 2月24日(土) ・ 8次隊派遣
 - 2月26日(月) ・ 門前中学校が、中学校の校舎に移行して授業開始
 - 2月29日(木) ・ 9次隊派遣
 - 3月1日(金) ・ 輪島市内県立高等学校卒業式
 - 3月5日(火) ・ 10次隊派遣
 - 3月8日(金) ・ 輪島市内中学3年生が白山青年の家、白山ろく少年自然の家の集団避難終了
 - 3月9日(土) ・ 輪島市内中学校卒業式
 - 3月10日(日) ・ 11次隊派遣
 - 3月14日(木) ・ 熊本県学校支援チームが輪島市派遣終了
・ 11次隊が熊本県学校支援チームから引継ぎ(市中心部支援に移行)
 - 3月15日(金) ・ 12次隊派遣
・ 輪島市内小学校卒業式
 - 3月18日(月) ・ 12次隊が輪島高等学校で輪島中学校の支援開始
 - 3月20日(水) ・ 13次隊派遣
 - 3月22日(金) ・ 輪島市内の中学1, 2年生が白山青年の家、白山ろく少年自然の家の集団避難終了
 - 3月25日(月) ・ 14次隊派遣
・ 13次隊が輪島中学校校舎で支援開始
 - 3月26日(火) ・ 県教育委員会事務局が石川県教育委員会、輪島市教育委員会を訪問し、支援活動について協議
 - 3月29日(金) ・ 県教育委員会事務局が門前西小学校、門前東小学校、門前中学校、門前高等学校、輪島中学校、輪島市教育委員会及び石川県教育委員会訪問し、現状把握と今後の支援活動について協議
 - 3月30日(土) ・ 宿泊施設「TOGISO」片付け
 - 3月31日(日) ・ 三重県災害時学校支援チーム派遣終了
参加人数44人(隊員35人、サポート隊員9人)

第3章

各隊の学校支援活動

3-1 先遣隊の活動

日程： 令和6年1月10日（水）から11日（木）

派遣隊員：三重県教育委員会教育総務課 学校防災・危機管理班

班長 瀧川 昌俊

係長 佐々木 晃

内容：輪島市教育委員会、輪島市内小中学校（大屋小学校、輪島中学校、鳳至小学校）及び石川県教育委員会を訪問のうえ、以下の被災状況や支援ニーズ等の情報収集を実施

状況：①児童生徒、教職員の安否確認、学校運営の状況

- ・市内の小中学校、高校、特別支援学校は全て始業式を延期
再開時期は未定
- ・河井小学校、鳳至小学校は教室損壊、他校の教室も避難所として利用しているため、使用不可
- ・市内の小中学生、教職員は全員無事を確認

②教職員の勤務状況、児童生徒の生活状況

- ・勤務校もしくは自宅最寄りの学校の避難所運営に、ほとんどの教職員が携わっている。
- ・家庭訪問が出来ない状況であるため、健康状態や所在が把握できない児童生徒がいる。
- ・運営にあたる教職員も被災者で、出勤にも時間を要している教員もいる。
- ・現時点では、児童生徒の心のケアに当たれる状況にない。

要請内容：

- ①教員への授業支援
- ②児童生徒の心のケア



3-2 本隊の支援活動

①第1次隊

日程：令和6年1月19日（金）～1月26日（金）

派遣隊員（調整隊）：三重県教育委員会教育総務課 学校防災・危機管理班
班長 瀧川 昌俊
係長 佐々木 晃

派遣隊員（本隊）：鈴鹿市立清和小学校 養護教諭 森 啓子
松阪市立阿坂小学校 教諭 土井 翔太
大台町立宮川中学校 主事 早川 輝

※調整隊は1月19日（金）から、本隊は1月20日（土）から支援活動を実施

調整隊は第1次隊のみ派遣、以後は本隊を派遣

活動内容：門前東小学校にて、学校再開に向けた学校教育支援

※門前中学校、門前東小学校、門前西小学校が合同で、門前東小学校にて1月24日（水）から学校を再開

- ・図書室、金庫等の片付け補助
- ・授業再開に向けて必要な備品、教材等の準備、搬入補助
- ・保護者への転出入案内・教科書再給与冊数照会及び教職員の災害見舞金請求事務の支援等への事務補助
- ・授業再開用の教室設営の実施
- ・登校時の交通誘導の実施
- ・現地教員の授業支援、オンライン授業補助
- ・健康管理アンケート、児童の「心のケア」授業を実施



教室設営実施



授業支援

②第2次隊

日程 : 令和6年1月25日(木)～1月31日(水)

派遣隊員 : 三重県教育委員会教育総務課 主幹 深田 勝利
熊野市立木本中学校 教諭 榎本 善応
南勢教育支援事務所 充指導主事 山本 将也

活動内容 : 門前東小学校にて、学校教育支援

- ・ 登下校路の安全確認
- ・ 登校時の交通誘導の実施
- ・ 教材や簿冊の整理、児童合唱用の歌詞印刷と張り合わせの補助
- ・ 教室と特別教室の時計合わせ作業の実施
- ・ 職員室に掲示する時間割表をホワイトボードとラミネーター、磁石を使って作成
- ・ 中学生の体育の授業(リズム運動、走り方の基本)を実施
- ・ 自衛隊から届いた牛乳とヤクルトを児童生徒数分に配付
- ・ 校舎の開かない窓の改善補修
- ・ 授業支援及びオンライン授業のサポート
- ・ 小中学校授業の見回りと支援
- ・ 教室のドア付近と机上のアルコール消毒作業
- ・ 児童生徒用トイレ及び教室の清掃活動
- ・ 支援物資(Tシャツ・パーカー・ジャージ等)のサイズごとに仕分け作業



窓の改善補修



支援物資の仕分け作業

③第3次隊

日程 : 令和6年1月30日(火)～2月5日(月)

派遣隊員 : 桑名市立多度青葉小学校 養護教諭 木村 美佳
四日市市立塩浜中学校 教諭 稲垣 建人
尾鷲市立向井小学校 教諭 西川 知輝

活動内容 : 門前東小学校にて、学校教育支援

- ・登下校時の交通誘導の実施
- ・教室清掃と黒板掃除
- ・教室のドア付近と机上のアルコール消毒作業
- ・支援物資(Tシャツ・パーカー・ジャージ等)をサイズごとにパッキング
- ・支援物資と水の運搬
- ・朝の健康観察チェック巡回、児童と交流
- ・授業の見回り、授業支援
- ・健康アンケートの確認と児童観察
- ・手動で鳴らしていた学校チャイム(ハンドベル)をアプリChromebookから自動で鳴らせるように対応
- ・1,2年生の豆まきの教材作り(新聞の豆作り、鬼のお面作り)
- ・健康アンケートの確認と児童観察、スクールカウンセラーや養護教諭と健康アンケートの結果を踏まえ、今後の対応を協議
- ・中学理科の授業、教材研究
- ・保健室扉の表示、デジタル教科書のインストール



豆まきの教材作り



保健室扉の表示

④第4次隊

日程 : 令和6年2月4日(日)～2月10日(土)

派遣隊員 : 四日市市立楠小学校 教諭 石井 良彦
鈴鹿市立桜島小学校 教諭 大串 敦史
県立東紀州くろしお学園 教諭 川上 みさき

活動内容 : 門前東小学校にて、学校教育支援

- ・登下校時の交通誘導の実施
- ・教室等の清掃消毒
- ・担任の補充で体育、英語の授業実施
- ・小学1, 2年生が避難者へメッセージを書く授業の支援
- ・特別支援学級等授業支援、オンライン授業のサポート
- ・宿題採点、プリント準備の支援
- ・3, 4, 5年生の理科の教科書を遠隔授業用にクラスルームに掲載
- ・給食部屋の整備
- ・寄付品ヘルメットの仕分け作業
- ・6年生の教室準備



授業支援



椅子の清掃作業

⑤第5次隊

日程 : 令和6年2月9日(金)～2月15日(木)

派遣隊員 : 多気町立勢和中学校 教諭 川端 駿太
度会町立度会小学校 指導教諭 大西 徹
名張市立桔梗が丘東小学校 教諭 水本 憲二

活動内容 : 門前東小学校及び輪島高等学校にて、学校教育支援

- ・ 輪島市役所にて熊本県学校支援チーム13班と情報交換のうえ、
合同で石川県立輪島高等学校の清掃作業を実施
- ※市中心部7校(河井小学校、鳳至小学校、鶴巣小学校、大屋
小学校、河原田小学校、三井小学校、輪島中学校)合同で、
2月6日(火)から輪島高等学校において授業再開
- ・ 登下校時の交通誘導の実施
- ・ 校内(体育館、ランチルームなど)の清掃、消毒
- ・ 校舎の設備修繕
- ・ 給食準備手伝い
- ・ 授業の見回り、授業支援
- ・ 飲料水運搬
- ・ 震度4の地震に伴う体育館への避難誘導支援(小学生のみ)
- ・ 被災地応援イベント補助参加



体育館の清掃



避難誘導

⑥第6次隊

日程 : 令和6年2月14日(水)～2月20日(火)

派遣隊員 : 亀山市立川崎小学校 教諭 小濱 裕之
大台町立三瀬谷小学校 主任 石井 優樹
県立四日市農芸高校 教諭 辻 泰弘

活動内容 : 門前東小学校及び門前高等学校にて、学校教育支援

※門前高等学校での学校教育支援を開始

- ・登校時の交通誘導の実施
- ・修繕作業
- ・教材仕分け
- ・授業補助
- ・事務補助
- ・トイレ等の給水作業
- ・炊き出し準備、配膳
- ・書類整理
- ・玄関横脇棚の整理 (トロフィーなど)
- ・PC室破損ディスプレイ調査、確認、書類まとめ補助
- ・SHR見回り (オンライン対応)
- ・校内の震災被害について見回り、校内整理
- ・配給用パンの回収



PC室破損ディスプレイ調査、確認



トイレの給水作業

⑦第7次隊

日程 : 令和6年2月19日(月)～2月25日(日)

派遣隊員 : 名張市立桔梗が丘小学校 教諭 澤 久恵
県立名張青峰高校 教諭 藤高 照也
亀山市立亀山東小学校 養護教諭 奥井 紗菜(サポート)

活動内容 : 門前東小学校及び門前高等学校にて、学校教育支援

- ・登下校時の交通誘導の実施
- ・授業支援
- ・保健室支援
- ・掲示物・配布物作成
- ・炊き出し準備、配膳
- ・校内清掃
- ・理科室片付け
- ・書庫整理
- ・水・支援物資運び込み



掲示物作成



水の運び込み

⑧第8次隊

日程 : 令和6年2月24日(土)～3月1日(金)

派遣隊員 : 桑名市立明正中学校 教諭 斎藤 傑
伊賀市立上野西小学校 教諭 真鍋 吉宏
松阪市立射和小学校 講師 村林 幸穂 (サポート)

活動内容 : 門前東小学校、門前中学校及び門前高等学校にて、学校教育支援

※門前中学校が中学校の校舎に移行して授業開始

- ・登下校時の交通誘導の実施
- ・授業準備、授業見回り、授業支援
- ・書庫、教材室の整理
- ・ランチルーム、理科準備室、廊下清掃
- ・昼食準備、配膳、昼食の食缶洗い
- ・校内清掃
- ・門前西小学校から備品搬入
- ・倉庫に荷物搬入、備品整理
- ・卒業式準備
- ・壁面飾り、手すり消毒
- ・支援物資(パン)、水の搬入、飲料水交換
- ・更衣室、理科室、調理室整理



飲料水交換



書庫、教材室の整理

⑨第9次隊

日程 : 令和6年2月29日(木)～3月6日(水)

派遣隊員 : 鈴鹿市立若松小学校 教諭 徳田 健介
名張市立名張小学校 教諭 上嶋 真実
県立白山高校 教諭 塩谷 正雄 (サポート)

活動内容 : 門前東小学校、門前西小学校、門前中学校及び門前高等学校にて、
学校教育支援

- ・ 登下校時の交通誘導の実施
- ・ 階段、廊下、トイレ等清掃活動
- ・ 炊き出し準備、昼食支援
- ・ 図書室で消毒作業
- ・ 門前西小学校から物品搬出、搬入
- ・ 卒業式準備支援 (会場設営、卒業証書・看板準備等)
- ・ 壁面掲示物取り外し
- ・ 幔幕張り
- ・ 簿記授業支援、保健室学研、準備サポート
- ・ 支援物資 (パン) 運び込み
- ・ 水の補充
- ・ トロフィーの修復
- ・ 災害ごみの片付け、搬出



授業支援



災害ゴミの片付け、搬出

⑩第10次隊

日程 : 令和6年3月5日(火)～3月11日(月)

派遣隊員 : 津市立橋北中学校 教諭 浅井 剛史
紀北町立相賀小学校 教諭 中村 佳栄
県立木本高校 教諭 喜田 裕彰(サポート)

活動内容 : 門前東小学校、門前西小学校、門前中学校及び門前高等学校にて、
学校教育支援

- ・登校時の交通誘導の実施
- ・給食準備、片付け
- ・児童の私物整理
- ・事務補助
- ・下駄箱、通路、手洗い場、トイレ、卒業式会場周辺の清掃、
ゴミ集め
- ・草抜き、庭木の剪定、花の手入れ
- ・送る会楽器運搬、送る会用飾り制作
- ・手洗い用タンク等水補充、水運搬
- ・テストの採点、授業プリント作成(家庭科)
- ・掲示物取り外し、液体洗剤補充
- ・卒業式会場設営補助、卒業式片付け
- ・支援物資(パンなど)の運搬
- ・教室復元



授業プリント作成



卒業式会場周辺清掃

⑪第11次隊

日程 : 令和6年3月10日(日)～3月16日(土)

派遣隊員 : 県立松阪あゆみ特別支援学校 教諭 西岡 一樹
多気町立佐奈小学校 主任 中瀬 信亮
鈴鹿市立大木中学校 指導教諭 森嶋 かをり(サポート)

活動内容 : 門前東小学校、門前中学校及び門前高等学校にて、学校教育支援

- ・登校時の交通誘導の実施
- ・昼食準備、片づけ
- ・備品整理、清掃
- ・壁面飾り
- ・6年生を送る会記録
- ・物資受け取り、搬入
- ・水汲み、運搬
- ・事務補助
- ・小学校：卒業式準備
- ・熊本県学校支援チーム引継ぎ、打合せ

※熊本県学校支援チームが輪島市への派遣終了し、三重県学校支援チームが市中心部に移行するに伴い、引継ぎを実施



清掃活動



清掃活動

⑫第12次隊

日程 : 令和6年3月15日(金)～3月21日(木)

派遣隊員 : 県立特別支援学校西日野にじ学園 教諭 矢田 陽
名張市立比奈知小学校 教諭 前川 晋作(サポート)
志摩市立文岡中学校 教諭 山本 樹美(サポート)

活動内容 : 輪島高等学校にて、輪島中学校の学校教育支援

※今まで門前地区にて学校支援活動を実施していたが、3月18日(月)から市中心部である輪島高等学校で輪島中学校の支援を開始(輪島高等学校内で市中心部7校(河井小学校、鳳至小学校、鴻巣小学校、大屋小学校、河原田小学校、三井小学校、輪島中学校)合同で2月6日(火)から授業を再開)

- ・授業補助
- ・清掃の補助
- ・炊き出し・配膳補助
- ・清掃の補助
- ・水の補充



水の補充



炊き出し支援

⑬第13次隊

日程 : 令和6年3月20日(水)～3月26日(火)

派遣隊員:

県教育委員会高校教育課 充指導主事 曾野 亜希子

名張市立美旗小学校 教諭 川極 道子

県立特別支援学校玉城わかば学園 教諭 大松 祐太(サポート)

活動内容: 輪島高等学校内にて、輪島中学校の学校教育支援

輪島中学校にて、学校教育支援

※3月25日(月)から輪島中学校に支援先を変更

- ・授業補助
- ・炊き出し、配膳補助
- ・輪島高校から輪島中学校へ荷物搬出支援
- ・輪島中学校にて教室、靴箱等整備(掃除等)



炊き出し支援



教室、靴箱等整備(掃除等)

⑭第14次隊

日程：令和6年3月25日（月）～3月31日（日）

派遣隊員：津市立一身田小学校 教諭 坂口 敏満
名張市立錦生赤目小学校 教諭 山中 寿士
県立石薬師高校 教諭 辻 昌享（サポート）

活動内容：輪島中学校にて、学校教育支援

- ・教室等整備（掃除・ケーブル整備等）
- ・靴箱整備（掃除等）
- ・支援物資の選定
- ・支援物資の整理作業
- ・文具類の整理作業
- ・廃棄物の移動
- ・屋上の土砂搬出
- ・教科準備室、音楽室の整理
- ・教室の整備（大阪府・J O C Aの方々と合同で実施）



支援物資の整理作業



教室等整備

第4章

気づき・課題と南海トラフ地震対策の強化に

向けた取組の方向性

4 気づき・課題と南海トラフ地震対策の強化に向けた取組

の方向性

今回派遣された隊員やサポート隊員が学校支援活動で感じた「気づき」や「課題」を取りまとめ、南海トラフ地震に向けた学校の防災対策に活かしていくため、南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性を記述しています。

1 非常参集

(1) 職員が参集できないことを想定した体制

○気づき、課題

輪島市教育委員会では、発災直後、道路の寸断や職員自身の被災により、職員のほとんどが参集できず、教育長をはじめ少人数の職員で初動対応を行わざるをえなかった。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

各職員が、非常参集時の参集手段や参集ルートをあらかじめ想定しておくなど、平時から備えておくべき事項を整理し、各自検討する。

参集できた職員の人数に関わらず、事務局の初動対応を確実に実施できる体制を整える。

(2) 自宅近くの学校に参集して対応する体制

○気づき、課題

勤務校に参集ができなかったため、自発的に自宅近くの学校に参集した教職員が多くいた。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

道路状況等により勤務校に参集できない場合は、自宅近隣の学校に参集できることとするなど、教職員の参集場所を柔軟にできるよう検討する。

2 安否確認

(1) 児童生徒の安否確認の方法

○気づき、課題

平時に保護者との連絡用で使用している連絡アプリにより、児童生徒の安否確認ができた。一方、非常時の連絡アプリの有効性が確認できたものの、連絡アプリに返信がない保護者については、通信手段がままならず、

教員が家庭訪問により安否確認を行うこととなった。なお、家庭訪問にあたっては、道路の陥没や家屋倒壊のリスクがあり、教員一人での家庭訪問は危険な状況であった。

また、児童生徒の自宅が被災した場合、身を寄せている避難所が把握できず、安否確認に時間を要した。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

非常時の保護者との連絡手段について、まずは連絡アプリを利用すること。また、連絡アプリが使用できない状況を想定した対応方法を定め、平時から保護者と共有する。

また、災害時の家庭訪問に関するルールや実施方法を検討するとともに、児童生徒が避難所に避難した場合の情報の伝達について、平時から保護者と共有する。

3 避難者対応

(1) 学校を避難所として利用する際のルールの設定

○気づき、課題

輪島市では大規模災害時の一次避難場所である市の施設（体育館等）に多くの住民が避難する想定であったが、「学校は安全安心」「自宅から近い」という認識が住民にあり、想定以上の住民が学校に避難した。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

災害時には事前に指定避難所に指定されていない学校にも、避難してくる住民がいることを想定して、事前の準備を検討する。

(2) 教育活動の再開を見据えた学校施設利用方法

○気づき、課題

避難者の居住スペースや避難所運営の場所を決めていなかった学校では、教室や会議室等を避難者の都合で利用しているケースがあった。

そのため、教育活動に必要な教室確保に向けた避難者との調整に時間を要し、学校再開の支障となった。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

避難者の居住スペースや避難所運営に必要な場所など、学校が避難所となった際の施設の利用方法についてあらかじめ定めておく。

また、避難した住民が施設を適切に利用できるよう、居住場所などの施設の利用方法をわかりやすくするなど工夫する。

(3) 地域のつながりを活かした避難所運営

○気づき、課題

発災当初、輪島市では、市職員や学校教職員の大半が避難所運営に従事する状況となり、市災害対策本部の活動や学校再開に支障をきたした。

一方で、住民が避難所の居住スペースを自治会の単位で区割りするなど、平時から地域と避難所運営の仕組みを作っていた地区では、発災当初から住民による主体的な運営を行っている好事例もあった。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

地域を中心とした主体による避難所運営が行えるよう、平時から行政（防災担当）や地域と協議を行い、避難所設営や運営訓練などを検討、実施する。（避難訓練、保護者への引渡訓練に加えて、避難所開設、運営訓練の実施）

児童生徒には、学校が避難所となる場合があることを周知し、その際には、自分たちがどのような役割を担えるかを考える機会を設ける。

4 学校再開に向けた対応

(1) 備品等の転倒対策の実施

○気づき、課題

地震により多くの学校の校舎が損壊し、校舎に被害がない場合でも、校舎内のロッカーや本棚等の備品の多くが転倒した。今回の地震は校舎内に児童生徒がいなかったため、備品転倒による怪我はなかったが、在校時に発生していたら甚大な被害となっていた。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

児童生徒や教職員の生命を守るため、校舎の耐震化を進めているが、併せて、校舎内の安全を確保するため、ロッカーや書庫等重量物が倒れないように、転倒対策を強化する。

(2) 被災した児童生徒に関する事務対応

○気づき、課題

学校再開に向けた取組を進める中で、教科書や事務用品の不足数など、さまざまな調査や問い合わせが殺到した。また、児童生徒が転校を希望する場合の手続き、教職員からの医療費や手当の相談など、学校事務の業務が増加した。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

平時に学校事務の共同実施を行っている地域もあるが、災害時を見据えて、例えば、各校に共通する事務作業は、担当する学校を決めて共同で事務処理を行うことなどを検討する。

5 学校再開後の授業の実施

(1) 複数の学校による合同授業の実施

○気づき、課題

学校が避難所となったことにより、複数の学校の児童生徒を集めて、合同で授業を実施する対応を行ったが、地震前の授業の進捗が異なることや、いつもと違う先生の授業、他校の児童生徒の存在に戸惑いや不安をみせる児童生徒がいた。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

災害時には、複数の学校が合同で授業を再開する可能性があることも想定し、その場合の授業実施体制などを検討する。

(2) ICTを活用した授業実施

○気づき、課題

学校再開後も、県外に避難していたり、保護者が送迎できないなどの理由で、登校できない児童生徒がおり、対面とオンラインを併用して授業を行った。オンライン授業は有効であったが、併用の授業を行う教職員の負担は大きかった。また、デジタル教科書の準備やオンラインに不慣れた教員も多く、授業準備が滞る場面もあった。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

デジタルセキュリティ、オンライン授業の方法やデータ共有など、教職員のオンライン授業に関するスキルを高める。

(3) 学校に避難所が設置されている環境での活動

○気づき、課題

体育館や教室が避難所として利用されていたり、運動場を被災地支援活動の拠点として利用していたため、児童生徒は校内で自由に移動できなかったり、休み時間に運動場で遊べなかったりするなど、活動に制限があった。また、体育授業の実施場所の確保にも苦慮した。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

学校に避難所が設置されている環境下でも、児童生徒が安心して学校生活を過ごせるよう検討するとともに、運動場や体育館が使用できない場合における体育授業の実施方法についても検討する。

6 学校再開後の心のケア

(1) 児童生徒の心のケア

○気づき、課題

地震により、児童生徒はさまざまな不安な気持ちを抱えて過ごしていた。平時から支援・サポートが必要な児童生徒は、対応がより必要な状況となったが、その対応ができる教職員を確保できなかった。

避難場所から学校に通う児童生徒もおり、気分転換できる居場所の確保の必要性を感じた。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

平時から支援・サポートが必要な児童生徒への災害時の対応を検討する。心のケアに関するアンケートを実施する際には、プライバシーに十分配慮する。

被災した児童生徒の心の負担軽減や回復を目的として、遊びの機会や学習支援をしているNPOとの連携、支援を検討する。

(2) 教職員の心のケア

○気づき、課題

教職員も被災者であるが、『地域のため』『子どものため』という使命感が強く、心理的な負担があっても我慢をして、業務にあたっている。

○南海トラフ地震対策の強化に向けた取組の方向性

災害時の教職員のこころのケアなどを検討する。

第5章

派遣隊員の感想（派遣を振り返って）

5 派遣隊員の感想（派遣を振り返って）

1. 氏名 土井 翔太（松阪市立阿坂小学校 教諭）
派遣先 輪島市立門前東小学校
期間 1次隊：1月20日～1月26日



能登半島地震の第一報の映像が流れたとき、能登で何が起きているのか理解できませんでした。しかし、友人が北陸方面で被災したことを知り、「教員として、自分に出来ることは何かないか。」という思いで行かせていただきました。

実際に現地へ行き、建物の倒壊や地滑り、崩壊した道路など、被害の大きさを目の当たりにすると、不安や恐怖、言葉に出来ない様々な感情が溢れてきました。しかし、このような状況でも先生や被災された方々は笑顔で接してくれました。苦しく、大変な状況の中でも、私たちにあたたかく接してくれる姿を見て、「この方たちの力になりたい」と強く想いました。

私が、活動の中で大切にしていたことは、「笑顔」と「コミュニケーション」です。時間を見つけては、校内を歩き回り、さまざまな人と笑顔でコミュニケーションを取っていました。現地の方は遠慮されてなかなか要望を出しにくい状況にありましたが、こちらが笑顔で話しかけると、何気ない会話の中からどのような支援を求められているのかが見えてきました。お願いされたことをやるだけでなく、「相手の想いに寄り添い、それに合う支援を行なう。」これが私たち災害時学校支援チームとして大切にしていけないことではないかと思いました。

今回の派遣を通して、「自分に出来ることを考え、相手のニーズを把握し、行動する」ことで、少しでも助けになるということを、強く認識しました。今後の教育実践に今回の派遣での経験を活かし、努力を積み重ねていきます。

2. 氏名 榑本 善応 (熊野市立木本中学校 教諭)
派遣先 輪島市立門前東小学校
輪島市立門前中学校
期間 2次隊：1月25日～1月31日



能登半島地震の被害状況の報道をみて、1月3日に管理職と3年生の職員に、「災害時学校支援チーム」の活動があると思うと連絡しました。

翌日には、支援チームから派遣を検討中、1月15日には、緊急Zoom会議で派遣のための日程調整（翌日が提出）がありました。

予想していたよりも長い期間の派遣でしたが、再度管理職と職場に協力を依頼しました。

2次隊としての派遣がきまり、1月19日に担任しているクラス・学年に輪島市へ「学校再開のお手伝いに行く」ことを伝えました。

特に、3年生にとって受験を控えた非常に大切なときに、1週間不在にすることについて「君たちと同じ中学生が、授業もできずに大変なことになっている。何ができるかわからないが、現地ですることをやってくる。」と伝えました。

涙を流しながら私の話を聞いている生徒もいました。

3年生担任、学年主任でこの時期に1週間学校を空けることは、正直悩みましたが、「私が能登に行く姿を子どもたちに見せることで、子どもたちに何かを伝えることができる。」とっていました。

今回、派遣を許可していただいた、管理職をはじめ職場のみなさんには、本当に感謝しています。

現地に行くに当たって、私は3つテーマを持ちました。

- ①自分のできることをする。(得意をいかす。)
- ②自分の体調管理をする。(しっかり食べる。)
- ③他の隊員が参加しやすいように、支援チームの掲示板に積極的に書き込む。

たまたま持って行ったタンバリンとスピーカーを使って、中学生にリズム運動をやってもらったのが印象的でした。少しですが、体と心をほぐすことができたかと思いました。

私の住んでいる地域でも、いつこのような状況（もっとひどい状況に）になるかもしれません。

これからも、自分たちにできることをやっていきたいと思います。

3. 氏名 稲垣 建人 (四日市市立塩浜中学校 教諭)
派遣先 輪島市立門前東小学校
期間 3次隊：1月30日～2月5日



門前東小学校への派遣から、学んだことは「当たり前毎日が当たり前ではないこと」です。私自身、被災地に初めて訪れました。そこで自然災害の恐ろしさ、人間の温かさを間近に感じました。短期間の派遣はあっという間で自分自身は何ができたかは正直分かりません。ただ、被災された児童・生徒を少しでも元気づけたいという思いを強く持ち、過ごすことができました。

また、現地の先生方の姿には感銘を受けました。市内の方から通われている先生方もみえ、なかなか帰れない先生方もみえました。その中でも先生方が、児童・生徒に一生懸命授業を行っている姿を見て、教師のすごさを感じました。そこで授業の準備時間を確保できることが大切であると考え、教室整備など自分なりにサポートすることができました。私たちが、教師だからこそ分かる気持ちも多々ありましたので現地の先生方とお話させてもらうことができ良かったです。

自分自身が過ごしている毎日は、数多くの奇跡が重なっていることを改めて感じることができました。ですのでこれからこの経験を三重県の生徒に伝えていき、この災害を風化させないように自分なりに伝えたいと思いました。

4. 氏名 石井 良彦 (四日市市立楠小学校 教諭)

※現鈴鹿市立国府小学校

派遣先 輪島市立門前東小学校

期間 4次隊：2月4日～2月10日



1月1日に発生した能登半島地震にあたり、2月4日～10日まで三重県災害時学校支援チーム第4次隊隊員として石川県輪島市で活動を行いました。

第4次隊のメンバーは、わたしのほかに小学校の教員1名と県立学校特別支援学校1名の計3名でした。小学校の教員とは、少し面識があったものの、ほぼ初対面でした。初めての派遣にあたり、隊員間で不安なことを共有し、できることを取り組んでいこうと話し合い、隊員同士の仲を深めました。

第3次隊との引き継ぎのために、高速道路を使って移動していくと、途中から道路状況が悪化していき、一般道を走行していきました。輪島市へ向かうにつれ、路面が更に悪くなり、倒壊している家屋がみられるようになり、改めて災害の大きさを目の当たりにしました。

派遣先の門前東学校には、門前西小学校と門前中学校の児童生徒も登校し、小学校は合同で授業を受ける形となっていました。その中でも、遠方に避難等をしている児童生徒はオンラインで学習に参加していました。4次隊の派遣期間では、学校が再開したといっても午前授業で、給食が再開していない状況でした。また、運動場には、自衛隊車両が入り、体育館では自衛隊の活動場所となっていました。児童生徒の活動場所は限られ、運動する場は4階の廊下や図書室の机を移動させて、体を動かす程度でした。

現地の教員ももちろん被災者ですが、学校再開のため、児童生徒のために懸命に教育相談や授業準備をされていました。支援チームとして、「自分たちにできることは何なのか」を隊員同士考え、児童生徒・教員に寄り添いました。

わたしたちは、登下校指導・授業支援・オンライン授業支援・児童の宿題チェック・各教室の清掃と消毒を毎日の活動をして、児童や教員のサポートをしました。状況に応じて、支援物資の整理、給食再開に向けたランチルームのセッティングの業務を行いました。また、先生たちも被災者であるため、休まなければならないことあり、代わりに英語や体育の授業を行いました。限られた環境のなかでも、子どもたちは笑顔で授業に取り組む姿が見られました。一日でも早く、学校再開に向けた準備の大切さを感じました。

活動を終えて、わたしは、被災された方に「がんばってください！」という言葉は言えないと感じました。それは、被災し、懸命に生活しているなかで、応援以上に寄り添うことが大切だと感じたからです。隊員として、できる限りのことをしようと思っていたけど、本当に役に立つことができたのか不安を感じていました。その中で被災された子どもたち、先生方に「たくさん、いろんなことを聞いてもらえてうれしかったです」「短い間だったけど、楽しかった」と言ってもらいました。自然災害の中で、自分の力は、本当に小さなものであるが、苦しさや辛さをともに支えられるなかまでいたい。そのためにも、これからも相手の気持ちを考えて行動していきたいと考えています。

5. 氏名 川端 駿太 (多気町立勢和中学校 教諭)
派遣先 輪島市立門前東小学校
石川県立輪島高等学校
期間 5次隊：2月9日～2月15日



令和2年度に隊員となりましたが、今回が初めての派遣となり、自分に何ができるのか、迷惑になってしまうのではないかと不安でいっぱいでした。派遣開始と同時に3連休でしたので、門前東小学校での活動前に、県立輪島高校の清掃活動をしたり、被災の様子を視察したりしました。被災の様子を目の当たりにして、心臓の鼓動が早くなったことをよく覚えています。まさに胸が詰まるという表現が相応しかったと思います。それと同時に「できることを精一杯やろう」と決心ができました。

「SSS (スクールサポートスタッフ) です。先生たちの代わりに、できることは全部すればいいんです」という1次隊の早川隊員の言葉を思い出し、清掃活動や消毒活動、授業の支援など、微力ながら取り組ませていただきました。タレントが支援活動に訪れた際、門前中学校の先生から「川端先生も一緒に写真撮りましょうよ、仲間じゃないですか!」と声をかけていただきました。短い派遣期間ではありましたが、仲間として受け入れていただいたこと、大変嬉しく思いました。そして、この活動の大きなやりがいを感じることができました。

もちろん、このような機会が今後二度とないことを祈りますが、必要となった際には、微力ながら尽力させていただきたいと思います。また、この経験を、日頃の教育活動にいかしていきたいと思います。

6. 氏名 石井 優樹 (大台町立三瀬谷小学校 主任)
派遣先 輪島市立門前東小学校
期間 6次隊：2月14日～2月20日



第6次隊として、石川県輪島市へ派遣されました。

降り立った金沢駅は、とても賑やかで震災があった県とは思えないほど人々が溢れていました。

しかし、輪島市へ車で近づいていくにつれて賑わいはなくなり、警察車両によって通行を規制されている道路ばかりでした。

輪島市内に入ると、道路は隆起し避けながらの運転を強いられました。家屋は倒壊し、人が生活できる状況では到底ない状況でした。さらに奥に進むと派遣先である門前東小があります。付近の家は、倒壊し避難所兼学校という形で授業を再開していました。

自分は、事務職員としての業務補助を行いました。

学校での事務職員は、縁の下の力持ちのような役割を果たしており、学校には欠かせない存在です。門前東小学校は、一人配置の学校でした。

自分よりも経験年数の若い事務の方であったため、日々の災害後の対応を管理職とともにに行っており、普段のすべき業務を行えていませんでした。

自分ができる範囲で、事務の方から要望を聞き取り、本来すべき業務のサポートを行い、事務の方が災害後の対応に少しでも全力で向き合えるように活動をしました。

自分のしたことは、小さな事務処理や整理整頓等でしたが、最終日には、事務の方に大変喜んでいただき、自分が事務職員として派遣されたことも役に立てたと感じる事ができる良い経験となりました。

7. 氏名 澤 久恵（名張市立桔梗が丘小学校 教諭）
派遣先 輪島市立門前東小学校
期間 7次隊：2月19日～2月25日



今回、派遣に行かせていただいた中で感じたことは大きく2つあります。

1つ目は、日常の大切さです。学校で授業が受けられること、友だちと会えること、ご飯が毎食食べられること、電気が使えること、いつでも安全できれいな水が得られること。毎日の生活で当たりまえのことが、大変ありがたいことだったということを感じました。派遣時は断水していたため、水は給水車で運ばれてくる分と支援物資で届く分しかありませんでした。また、学習にも影響があり、洗濯ができない状況であるため、体育の授業も着替えられなかったり、絵の具を使う活動もできなかったりしていました。教室の環境も、ダンボールで区切られているだけなので、隣の学年の声が聞こえ、授業者の先生の声が聞こえにくいような状況でした。その中でも子どもたちは一生懸命学習に取り組んでおり、すごいと思うとともに、いかに私たちが過ごす日常が、安全安心でありたいものであるかということを感じました。日々感謝の気持ちをもって過ごしたいです。出会った先生方のお話では、「道路が徐々に整備され日に日に復興が進んでいくことを見ると、気持ちも前向きになるし、全国からたくさんの支援をいただいて少しずつ環境がよくなっていることを毎日感じている。そのことが支えになっている。」とおっしゃっていました。生活環境や普段通りの日常が送れることが、心の安心や安定にもつながることがわかりました。

2つ目は、助け合うことの大切さです。派遣先では、3校が共に学んでいる状況でした。そのため、先生方も3校が同じ建物で働くことになっていました。特に2つの小学校は職員室も授業も同じです。先生方が担当を分け合ったり、仕事を協力したりしていました。また、学校外の職員の方も理科の実験の出前授業をしていたり、先生方ご自身の家庭もあるので、どの先生も定期的に休みやすい状況（しくみ）を作っていたりと、助け合う場面をたくさん見ました。これは、災害時だけでなく、平常時も大切なことだと改めて感じました。いつも互いが過ごしやすいように助け合うという視点を持つことで、非常時にもすぐにその力が発揮でき、制限のある中でも互いがよりよく過ごすことができると感じました。そのためには、困り感を出し合え信頼し合える関係づくりとフットワークの軽さ、柔軟な思考が必要だと思いました。

最後に、この派遣を通して出会ったたくさんの方に感謝しています。同じ7次隊で活動した仲間には、活動期間中たくさん支えられ、助けられました。また、避難所運営をされている行政の方の温かいお言葉や、宿泊地周辺の住民の方とお話、学校で出会った子どもたちや先生方との交流など、たくさんの関わりをいただけたことが活動のモチベーションにつながりました。避難所でお会いした方からは、元気に挨拶をいただいたり、すれ違うだけで「いつもありがとうございます」というお言葉をいただいたり、私たちを受け入れてくださっているようで大変うれしかったです。その言葉によって、心が温かくなり、人と人がつながれると感じました。この学び多い派遣の機会をいただき、ご支援賜りました本市・本校の職員の皆様にも感謝しています。

8. 氏名 真鍋 吉宏 (伊賀市立上野西小学校 教諭)

※現伊賀市立上野東小学校

派遣先 輪島市立門前東小学校

期間 8次隊：2月24日～3月1日



災害時学校支援チームの活動を終えて、まず感じたことは現場の先生方のすごさです。避難所から通っている先生や孤立地域からヘリで運ばれた先生、学校の避難所に泊まっていた先生など、自身も被災されているにもかかわらず子どもたちの前ではそんなことは全く感じさせないその姿に教育者としてあるべき姿を学びました。

子どもたちも門前東小と門前西小という2つの小学校が一時的に一緒に授業を行っていましたが、どの子がどちらの学校の子供なのか表面的にはわからないくらい仲良くなっていたようにみえました。

しかし、日が進むにつれて眠そうな様子の子どもや気持ちが不安定な様子の子どもが増えたり、泣き出す子どもがいたりと明らかに震災による影響を感じることもありました。特に避難所から登校していた子どもたちにはその傾向が顕著であったように思います。

8次隊として派遣されたときにはもう学校運営は再開されていて、私が行ったのは主に登下校時の交通誘導、学級に入り込んでの授業支援や水の補給、備品整理等でした。

その中でも特に、学校再開に向けての支援や授業支援は我々教職員にしかできない支援であり、三重県災害時学校支援チームが派遣された意義はあったと思います。

私が門前東小学校に派遣されてから約4か月が過ぎた7月の終わりに、門前地区がどれだけ復興したのか見に行ってきました。

総持寺周辺を歩いてみると更地になっている場所があったり、傾いていた電柱がまっすぐになっていたり、学校の玄関にあった仮設トイレや給水タンクがなくなっているなど見た目はある程度復旧されているように見えました。しかし、門前周辺の道路やマンホール周辺の段差を解消するための工事をしていたり、倒壊した家屋がまだ残っていたりと、多くの商店がまだ閉まったままでいるなど完全な復旧にむけての道はまだ遠いと感じました。

復興するまでは時間がかかるのですが、少しでも早く被災地が復興することを願っています。

9. 氏名 上嶋 真実 (名張市立名張小学校 教諭)
派遣先 輪島市立門前東小学校
輪島市立門前西小学校
輪島市立門前中学校
石川県立門前高等学校
期間 9次隊：2月29日～3月6日



私は震災が起こってから約2ヶ月経ってからの派遣でした。テレビで放映されている崩れた建物や下敷きになった車などがいたるところで目に入る中、生活を送っていることを目の当たりにしました。

私は、子どもたちに何かできることがしたいと思い、学校災害時支援チームの隊員になり、今回の派遣に参加しました。

門前町は、門前東小学校と門前西小学校の2つの小学校の子どもたちが1つの校舎で学習している状況でした。派遣の期間中に、2つの小学校の6年生を送る会の式次第を作ったり、被害に遭って出た廃棄物を運んだり、西小学校に置いたままになっていたピアノや算数ボックスなど教材の運び出しも行いました。断水が続いていたので、給水タンクからの水汲みも行いました。

中学校では、卒業式のためにランチルームに幔幕を貼るのを子どもたちや先生と一緒に行いました。体育館は避難所として開放されていて使えなくてもランチルームで卒業式ができるように計画したり、看板や卒業証書を準備したりしている先生方の思いや心を感じることができました。

職員室に戻れば、「自分の家の片付けがまだ終わっていない」、「手をつける余裕もない」と話している先生もいらっしゃる中で、子どもたちのために、校門に立って迎えたり、学習を進めたり、給食も行事もできることをしてあげたいと行動したりする姿を見て、私も何かできることがしたいという思いがより一層強くなりました。

短期の派遣で、力になれたことは少なかったですが、名張小学校に戻ってから、全校児童に自分の経験を伝え、防災について一緒に考える機会に繋がりました。能登半島地震で被害に遭われた地域の1日も早い復興を祈りたいと思います。自分の身近なところからがんばりたいと思います。

10. 氏名 中村 佳栄 (紀北町立相賀小学校 教諭)

※現紀北町立上里小学校

派遣先 輪島市立門前東小学校

期間 10次隊：3月5日～3月11日



わたしが派遣された10次隊は、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭と、職種がわかれていたため、門前の先生方のニーズをしっかりと把握し、できることを精一杯やる覚悟で派遣に臨みました。この隊の派遣日程が、高校入試や中学校の卒業式、小学校の送る会や学習の追い込み等と重なっており、だからこそ、学校現場を知っているわたしたちが「学校支援チーム」としてその経験を活かすことができると思いました。

今回の派遣では、たいへん貴重な体験をし、多くのことを学ばせていただきました。

まずは、地震の恐ろしさです。住居が傾いたり一階部分が押しつぶれたりしている光景を目の当たりにして、まず、ここから逃げることの難しさを考え、今、学校でとりくんでいる防災学習ではまだまだ足りないと痛感しました。

つぎに、コミュニティの大切さです。わたしは、派遣された学校の先生方や、避難されていた地域の方々から、たくさんの前向きな想いを聴かせていただくことができました。そのなかで、「人の顔がわかることの安心感」という言葉が印象的でした。お互いの顔がわかるからこそ、みんなで前向きになれる、ということが心に刺さりました。

最後は、当然ですが、教師も被災するということです。わたしたちは、防災学習をすすめるなかで、「学校が避難場所になる」ことを想定してさまざまな準備をしていますが、職員が被災し、学校に行くことができない場合や、児童の状況を把握しきれないケースについては、想定が不十分です。いまの自分たちに想像できる最大限の想定をして、その時に備えたいと思いました。また、学校の職員間や行政の職員、地域の方々と、日常的にいろんな話題でつながり、いざという時に、地域全体で動くことができる体制を整えたいと思いました。

わたし自身も6年生を担当していたため、3月のこの時期がどれほど大切な時期か理解していました。そのようななか、今回の派遣にあたり「先生、こっちは大丈夫。安心して行ってきて。」「帰ってきたら、いっぱい話を聞かせて。」「能登の状況を教えて。」と、心強い言葉をかけてもらいました。「卒業式、できるかな?」「みんなが元気やったらええけどなあ。」と、輪島の小学生を心配する6年生もたくさんいました。わたしは、現地に行き、たくさんの貴重な体験をさせていただくことができましたが、そうでなくても、現地に想いを寄せる方がたくさんいることに気づきました。そして、わたしも、これからも心を寄せていきたいと思えます。

このような経験をさせていただいた関係者のみなさま、現地の状況を聞かせてくださった門前の先生方、そして、快く送り出してくれた6年生の子どもたちや保護者、学校関係者に感謝し、今後のとりくみに必ず活かしていきたいと思えます。

11. 氏名 中瀬 信亮 (多気町立佐奈小学校 主任)
※現多気町立多気中学校
派遣先 輪島市立門前東小学校
輪島市立門前中学校
石川県立門前高等学校
期間 11次隊：3月10日～3月16日



自分は隊員として何ができるのだろうか、やっていけるのだろうか。それでも被災された先生や子どもたちのために何かできたらという思いで能登へ行きました。

発災から2か月以上たってからの派遣でしたが想像をこえていました。建物が倒壊している横を子どもたちが登下校をしている。住民の方が普通に生活をしている。私にとって非日常の中で授業が行われ、生活を送っている。一方で、ふとみせる疲労感や不安感があり、やはり大変な中で生活していることを実感しました。無理やり元気を出さないとやっていけないという人もみえました。1週間支援にいただけでしたが、お風呂や、あたたかいごはん、あたたかい部屋、当たり前のことがとてもありがたく感じました。被災された方が一刻も早く普通の生活に戻れるよう、できる人ができることをこれからもしていく必要性を強く感じました。

隊員として役にたったのだろうか、専門性とは何か。色々と考えさせられる日々でした。今回の経験を今後につなげていきたいです。

12. 氏名 矢田 陽（県立特別支援学校西日野にじ学園 教諭）
派遣先 輪島市立輪島中学校
期間 12次隊：3月15日～3月21日



私たち第12次派遣隊は輪島中学校で授業や炊き出し、配膳の補助などに取り組みました。

災害時に学校支援に従事して感じたのは学校、教員とは災害時においても特別な存在であるということです。

輪島中学校の先生方もまた、地域に暮らす被災者であり、自宅に帰れば自分の生活の復興に向けた様々な作業をしなければなりません。

そこに本来の職務である日々の授業があり、さらに当時は集団避難していた生徒たちに対するリモートの授業の手配が加わり、学校自体が避難所となる中その管理業務、学校再建に向けた取り組み、各地からやってくる支援物資の分配、私どものような公的な立場、あるいは私的な立場でやってくる様々なボランティアの対応といったような仕事も加わっておりました。

このように、学校、教員という存在は平時においても色々な仕事を抱えているものですが、災害時においても地域の中心としての役割、そして地域の未来を担う子どもたちのためにも復興に向けた仕事を任されている存在であるということが見えてきました。

このような大変な状況の中で、今回の派遣が能登地域の学校復興の一助になったのならば大変ありがたいことだと思います。

また、こういった大きな災害の時には、やはり人と人とのつながりというものが重要なのではないかと、被災地で働く様々な人々の姿を見て感じました。

輪島市内でも三重県のみならず各地からボランティアという形で多くの方が活動をされていました。こういった人々のつながりは今後も各地での災害において必ずや生きてくるものと思われまます。

そういった意味でも今回の災害派遣を通じて良い体験をさせていただいたと思います。ありがとうございました。

13. 氏名 川極 道子 (名張市立美旗小学校 教諭)
派遣先 石川県立輪島高等学校
輪島市立輪島中学校
期間 13次隊：3月20日～3月26日



輪島中学校の支援を行いました。

輪島高等学校での授業となり、不安な気持ちが行動に出てしまう生徒も垣間見られましたが、いつも先生方が落ち着いて穏やかに対応されており、その胆力に驚かされました。

修了式を終え、輪島中学への机や椅子の搬入、避難所として使われていた教室の清掃などを支援しました。

運動場は、自衛隊のトラックや、支援物資の搬入をする車がたくさん駐車されており、ヘリコプターも発着したためか、砂が大量に入り込み、窓ガラスを開けることすらできない状態でした。

窓の棧の砂をひたすら掃除する中、顔を上げると、地元に残った輪島中学校野球部の生徒が、6，7人しかいない中でも懸命に声を出してキャッチボールやバッティングを繰り返していました。

子どもならではの強さを感じることができました。

14. 氏名 山中 寿士（名張市立錦生赤目小学校 教諭）
派遣先 輪島市立輪島中学校
期間 14次隊：3月25日～3月31日



三重県災害時学校支援チームの最終派遣隊として輪島市に向かいました。前泊地となった金沢駅で他の隊員2名と合流し、翌日からの活動にむけた思いなどを語り合いました。

手配されたレンタカーで現地に向かうも、報道や事前の情報にあったとおり、道路状況は悲惨で、陥没や隆起などで徐行を余儀なくされたり、通行止めのための迂回路を回ったりなどして、到着時刻がまったく読めないなか、活動場所となる輪島中学校に入り、第13次隊の3人と顔を合わせ、引継ぎをしながら作業に入りました。

学校は春休みに入っていたので生徒たちの姿はなかったのですが、発生時以降避難所となっていた校舎・体育館には避難されている方々がたくさんいました。また、校内には、いったん持ち出された学校備品や生徒たちの持ち物、そして全国から届けられたであろう物資の山があり、2週間後に新年度を迎えられるのかどうかが不安になるような状態でした。中学校の教職員は朝から職員室から出ることなく、打ち合わせをされていたようで、教頭や校長からは最低限の指示を仰ぎ、自分たちで校舎内の整理をし、「4月から登校してくる児童生徒たちが、少しでも安心して過ごせるような環境を整えよう。」の一心で活動しました。

学校備品については勤務校で目にしているものが多く、使用頻度なども想定しながら、使いやすいように整理を進めました。頭を悩ませたのが各地から送られてきた支援物資の取り扱いでした。避難所生活を送っている方々にも十分に補充されていたにもかかわらず、校内には食飲料や衣類、毛布類、日用品があふれかえり、行き場をなくしていました。物資を寄せてくれた送り主のみなさんは「役立つものならば…」との思いでしょうが、衣類などはいくら洗濯済みであっても敬遠されるものかしれないと感じました。

大きく課題と感じたのは、体育館の空調設備の設置です。阪神淡路、東日本、そして今回の能登半島地震は冬場の発生で、大規模避難所はストーブをはじめとする暖房器具で対応できたと思いますが、夏場の体育館では、到底避難などできないと思います。学校体育館が「避難場所」となっている以上、三重県も早急に空調設備の設置を検討・実行すべきだと感じています。